

自閉症児の社会参加のためのスポーツ活動バリアフリーの構築研究
打ち合わせ会議 議事録 (資料) No.2

日時：平成 15 年 2 月 15 日 (土) 12:30～14:00

出席者：

小野寺，松井，山口，天岡，石本，野瀬，皆下，横山，西村一，中西，長山，
滋野，西岡大，西岡朋，高瀬，岡本，石井，星島，小坂

議事

1. 平成 15 年 2 月 15 日 (土) における水泳水中運動教室に関する課題

(1) 運営についての課題

9:00～10:00 準備，10:00～10:30 受付，10:30～12:00 水中運動教室，
12:00～12:30 片付け，12:30～14:00 反省会

(2) プログラムについての課題

10:30～10:45 準備体操，10:45～11:00 水慣れ，11:00～11:15 サーキット
11:15～11:25 キック練習，11:25～11:30 休憩，11:30～11:55 グループ活動，
11:55～12:00 水中ダンス

(3) 個々の課題

C クロールの手の練習，J 背泳ぎ，M 段階をおってクロール練習，N クロール、
呼吸動作の習得，T キャッチアップクロール，U 水の中で楽しみ自信をつける，
V 親とスタッフと協力してキック練習，W クロールの手の練習

2. 今後の展望

サーキット (ボール) の変更

3. その他

自閉症児の社会参加のためのスポーツ活動バリアフリーの構築研究
打ち合わせ会議 議事録 (資料) No.2

日時：平成 15 年 2 月 22 日 (土) 12:30～14:00

出席者：

小野寺，松井，西村正，山口，白，天岡，石本，野瀬，横山，西村一，折田，
長山，滋野，高瀬，岡本，坂川，崎谷，石井，星島，小坂

議事

1. 平成 15 年 2 月 22 日 (土) における水泳水中運動教室に関する課題

(1)運営についての課題

9:00～10:00 準備，10:00～10:30 受付，10:30～12:00 水中運動教室，
12:00～12:30 片付け，12:30～14:00 反省会

(2)プログラムについての課題

10:30～10:45 準備体操，10:45～11:00 水慣れ，11:00～11:15 サーキット
11:15～11:25 キック練習，11:25～11:30 休憩，11:30～11:55 グループ活動，
11:55～12:00 水中ダンス

(3)個々の課題

H 得意なことと苦手なことを組み合わせて課題をこなす，J 背泳ぎ、クロールの
手のタイミング，S プールへの入水，U 背浮きの習得，V ゴーグルをつける

2. 今後の展望

ボールの投げる位置の導線をはっきりさせる

3. その他

自閉症児の社会参加のためのスポーツ活動バリアフリーの構築研究
打ち合わせ会議 議事録 (資料) No.2

日時：平成 15 年 3 月 1 日 (土) 12:30～14:00

出席者：

小野寺，松井，西村正，山口，白，天岡，石本，野瀬，横山，西村一，折田，
長山，竹内，西岡大，西岡朋，高瀬，岡本，中川，石井，杉，星島，小坂
議事

1. 平成 15 年 3 月 1 日 (土) における水泳水中運動教室に関する課題

(1)運営についての課題

9:00～10:00 準備，10:00～10:30 受付，10:30～12:00 水中運動教室，
12:00～12:30 片付け，12:30～14:00 反省会

(2)プログラムについての課題

10:30～10:45 準備体操，10:45～11:00 水慣れ，11:00～11:15 サーキット
11:15～11:25 キック練習，11:25～11:30 休憩，11:30～11:55 グループ活動，
11:55～12:00 水中ダンス

(3)個々の課題

C課題に工夫をし、飽きずに課題に集中できるように、Gビート板キック練習、
I 段階をおってクロール練習、J 背泳ぎ、クロールを丁寧に行えるように、L
両足でのキック動作の習得、M ノープレクロール、N クロール中のキック動作
時に膝が開かないように、S プールへの入水、T キャッチアップクロール、U
ロングビート板なしでの背浮き

2. 今後の展望

他の参加者を意識させるため、見本を参加者で示す

3. その他

自閉症児の社会参加のためのスポーツ活動バリアフリーの構築研究
打ち合わせ会議 議事録 (資料) No.2

日時：平成 15 年 3 月 8 日 (土) 12:30～14:00

出席者：

小野寺，西村正，山口，白，天岡，石本，野瀬，横山，西村一，中西，長山，
竹内，滋野，岡本，西岡朋，藤森，宮下，坂川，崎谷，杉，松田，石井，星島，
小坂

議事

1. 平成 15 年 3 月 8 日 (土) における水泳水中運動教室に関する課題

(1)運営についての課題

9:00～10:00 準備，10:00～10:30 受付，10:30～12:00 水中運動教室，
12:00～12:30 片付け，12:30～14:00 反省会

(2)プログラムについての課題

10:30～10:45 準備体操，10:45～11:00 水慣れ，11:00～11:15 サーキット
11:15～11:25 キック練習，11:25～11:30 休憩，11:30～11:55 グループ活動，
11:55～12:00 水中ダンス

(3)個々の課題

C 肘を伸ばしてビート板キック練習，G 滑り台をすべる，H プログラムに参加，
I クロールの段階をおって練習，J クロール、背泳ぎの練習，L キック動作の
習得，M クロール練習，U ロングビート板なしでの背浮き，V キック練習

2. 今後の展望

レクリエーション活動として、ボールプールの導入

3. その他

自閉症児の社会参加のためのスポーツ活動バリアフリーの構築研究
打ち合わせ会議 議事録 (資料) No.2

日時：平成 15 年 3 月 15 日 (土) 12:30~14:00

出席者：

小野寺，松井，西村正，白，天岡，野瀬，関，滋野，岡本，西岡大，高瀬，藤森，宮下，坂川，中川，石井，星島，小坂

議事

1. 平成 15 年 3 月 15 日 (土) における水泳水中運動教室に関する課題

(1)運営についての課題

9:00~10:00 準備，10:00~10:30 受付，10:30~12:00 水中運動教室，
12:00~12:30 片付け，12:30~14:00 反省会

(2)プログラムについての課題

10:30~10:45 準備体操，10:45~11:00 水慣れ，11:00~11:20 サーキット
11:20~11:25 キック練習，11:25~11:30 休憩，11:30~11:55 ボールプール
11:55~12:00 水中ダンス

(3)個々の課題

C1 つ 1 つの課題に対して継続する，G 滑り台をすべる，I クロールの練習，J クロール、背泳ぎ練習，L キック動作の習得，M クロール練習，N 呼吸付きのクロール，S 水の中で楽しむ，V キック動作の継続

2. 今後の展望

- ・定期的なボールプールの導入
- ・毎回の評価表、フィードバックの継続

3. その他

岡山県

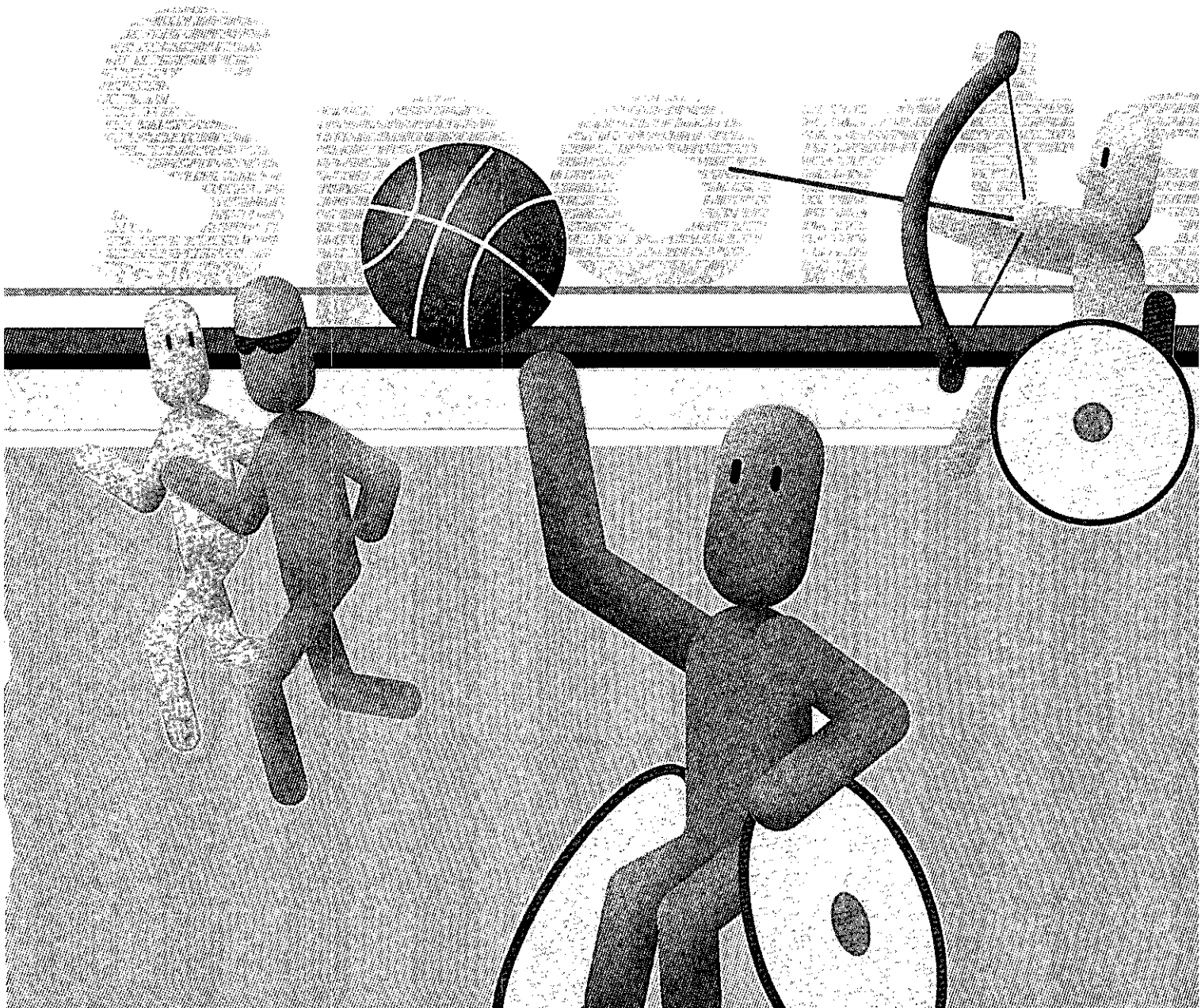
障害のある人、高齢者、福祉関係者、ボランティアのための情報誌

障害者スポーツ

The sports network for the Disabled in OKAYAMA

ネットワーク

厚生労働科学研究費補助金
障害保健福祉総合研究事業



はじめに

1998（平成10）年には長野で冬季オリンピックが開催されました。2000（平成12）年にはシドニーパラリンピックで、我が国は金銀銅合わせて41個のメダルを獲得しました。また2001（平成13）年には、これまで別々に行われていた全国身体障害者スポーツ大会と全国的障害者スポーツ大会（ゆうあい大会）とが統合され、記念すべき第1回障害者スポーツ大会が宮城県で開催されました。このように、マスコミで取り上げられることにより、ここ数年障害者スポーツに関する関心も高くなってまいりました。

障害の有無、また老若男女にかかわらず、私たちはスポーツを通じて人々と交流するなかで、実に多くのことを学びます。特に、高齢化と情報化の進んだ現代社会においては、スポーツによる生活の質：QOL（Quality of Life）を向上させることが期待されており、競技スポーツとともに日常的に気軽に行えるスポーツ活動の充実が求められています。

岡山大学教育学部では1998（平成10）年から、障害者スポーツの理解を深めることを目的に、「障害者スポーツ論」を開講しました。これまでの我々の調査からは、障害者スポーツの充実には、施設、仲間、指導者、情報などの条件整備が必要であることが明らかになりました。特に障害を持った方や高齢者が日常的にスポーツを行おうと思った場合、いつ、どこで、誰が、どのようなスポーツを行っているのかという情報をどこでどう入手すればよいのかということや、我々がボランティアとしてかかわりたいとしても、団体や障害の種類が異なれば、どこに何を聞けばいいのかが分からない。といった、障害者スポーツにかかわる「情報」を得ることが最も困難であることが判明しました。さらに実際にスポーツを行っている方々からは、「もっと我々の活動を知ってほしい、見てほしい、伝えてほしい」という意見が多く聞かれました。

障害者スポーツについては、これまでいくつかの専門誌が出版されました。これらはトップアスリートに関する記事や都会の情報がその中心であり、地域生活に密着した日常的なスポーツ活動とは大きく乖離していました。このことは先の意見からも、障害者スポーツに関する地域情報を提供していく必要性を示しているといえます。

1999（平成11）年11月に、永野氏（株永燃）が取り組んでいる「ホースセラピー」を見学する機会がありました。そして同年12月、同氏の呼びかけに多くの賛同者を得て、「障害者スポーツネットワーク発起人会」を発足しました。その後数回の勉強会を経て、2000（平成12）年8月には研修会を行いました。

本誌はこれらの経緯を経て、障害をもつ方々やこれらにかかわろう、かかわりたいという方々にスポーツの情報と参加の機会を提供する情報のバリアフリーと、岡山県内における情報の収集、整理、提供を目的に作成されたものです。特に取材にあたっては「障害者スポーツ論」受講生達の協力を得ました。

これを機に、障害者スポーツに関するネットワークが広がり、明るく活力のあふれる社会の一翼を担えることができれば大変うれしく思います。

（文中の敬称省略、また氏名は順不同）

分担研究者
岡山大学 教育学部
三浦 孝仁

目次

はじめに

1	岡山身体障害者体育センター利用者の様子	
	―障害者の日常スポーツ活動の現状と課題―	1
2	岡山県障害者スポーツの紹介	
ア行	アーチェリー	6
	エアロビック	6
	エアロビック ―リズム体操―	7
カ行	グランドソフトボール ―盲人野球―	8
	車いすダンス	9
	車いすツインバスケットボール	10
	車いすテニス（岡山市）	11
	車いすテニス（倉敷）	12
	車いす電動サッカー ―パワーサッカー―	13
	車いすバスケットボール	13
サ行	乗馬	15
	水泳	15
	ソフトボール	16
タ行	ダイビング	17
ハ行	バトミントン	17
	パワーリフティング	18
	フライングディスク	19
	フロアバレー	20
	ボーリング	20
マ行	盲人マラソン	21
3	岡山県スポーツトレーナー、ドクター一覧表	22
4	岡山県各地域別利用施設一覧	27
5	全国障害者スポーツ関係ホームページアドレス集	32
6	スポーツボランティア情報	41
7	スポーツ・イベント情報	44
8	参加者の声	47
9	岡山県障害者スポーツネットワーク研究協力者一覧表	50

1 岡山県身体障害者体育センター利用者の様子

— 障害者の日常スポーツ活動の現状と課題 —

1 岡山県身体障害者体育センター利用者の様子

—障害者の日常スポーツ活動の現状と課題—

近年、バリアフリーやノーマライゼーションなどの理念の広がりにより、障害者スポーツに対する関心も高まっています。そして、障害者が日常的に利用できるスポーツ施設も各地域にできています。そこで岡山県の障害者スポーツの現状について、岡山勤労身体障害者体育センター利用者を中心に、彼らの日常スポーツ活動について述べたいと思います。

岡山勤労身体障害者体育センター（以下、障害者体育センター）は、岡山市内に1981（昭和56）年に開所した障害者専用のスポーツ施設です。施設内は障害者の利用に対しての配慮がされており、アーチェリーや卓球、車いすバスケットボールや車いすツインバスケットボールなどが行われています。利用している障害者は、女性に比べ男性が多く、平均年齢は40歳近くでありました。スポーツ種目の平均年齢はアーチェリーなどの比較的軽度なものほど高くなっていました。利用者の障害の種類は、ポリオ（小児麻痺）、脊髄損傷、脳性麻痺、四肢機能麻痺、知的障害、頸椎損傷などでありました。

(1) 障害者体育センター利用者の日常スポーツ活動について

① スポーツを始めた動機について

動機として最も多かったのが「体力の維持・向上」で、33.9%でありました。

以下、「楽しみのため」「健康のため」「生きがいのため」と続きます。

② スポーツ実施の頻度について

多くの利用者が、1日に2～4時間、1週間に2～4日、1ヶ月に5～9日、スポーツを行っていました。

③ 障害者体育センターまでの移動にかかる時間

障害者体育センターの利用者のほとんどが車いすで、多くの利用者が車を利用していました。80%近くが1時間以内で、最も移動時間が長い者は3時間でした。

④ 障害者体育センター以外でのスポーツ活動

60%近くが、学校を除く公共施設をあげていました。自宅でスポーツを楽しんでいる利用者もいました。

⑤ スポーツに関する情報の入手方法について

施設や設備にかんする情報は、スポーツを行ううえで重要なものであります。60%の利用者が「家族・知人」をあげていました。新聞・雑誌、テレビ・ラジオなどのマスコミや、最近利用者が急増しているインターネットの利用はありませんでした。

⑥ スポーツの仲間について

「誰とスポーツを行うか」については、50%以上がチームやクラブの仲間をあげていました。

またボランティアなどともスポーツを行っていました。
 健常者とのスポーツの機会は、ボランティアの参加も含めて80%近くが「ある」と答えていました。

(2) 障害者体育センター利用者におけるスポーツ実施上の問題点について

図の1は、障害者がスポーツをする上で不便に感じていることを調べた結果です。これから施設や指導者、情報、経済的負担について不便を感じている利用者が多数いることが分かります。

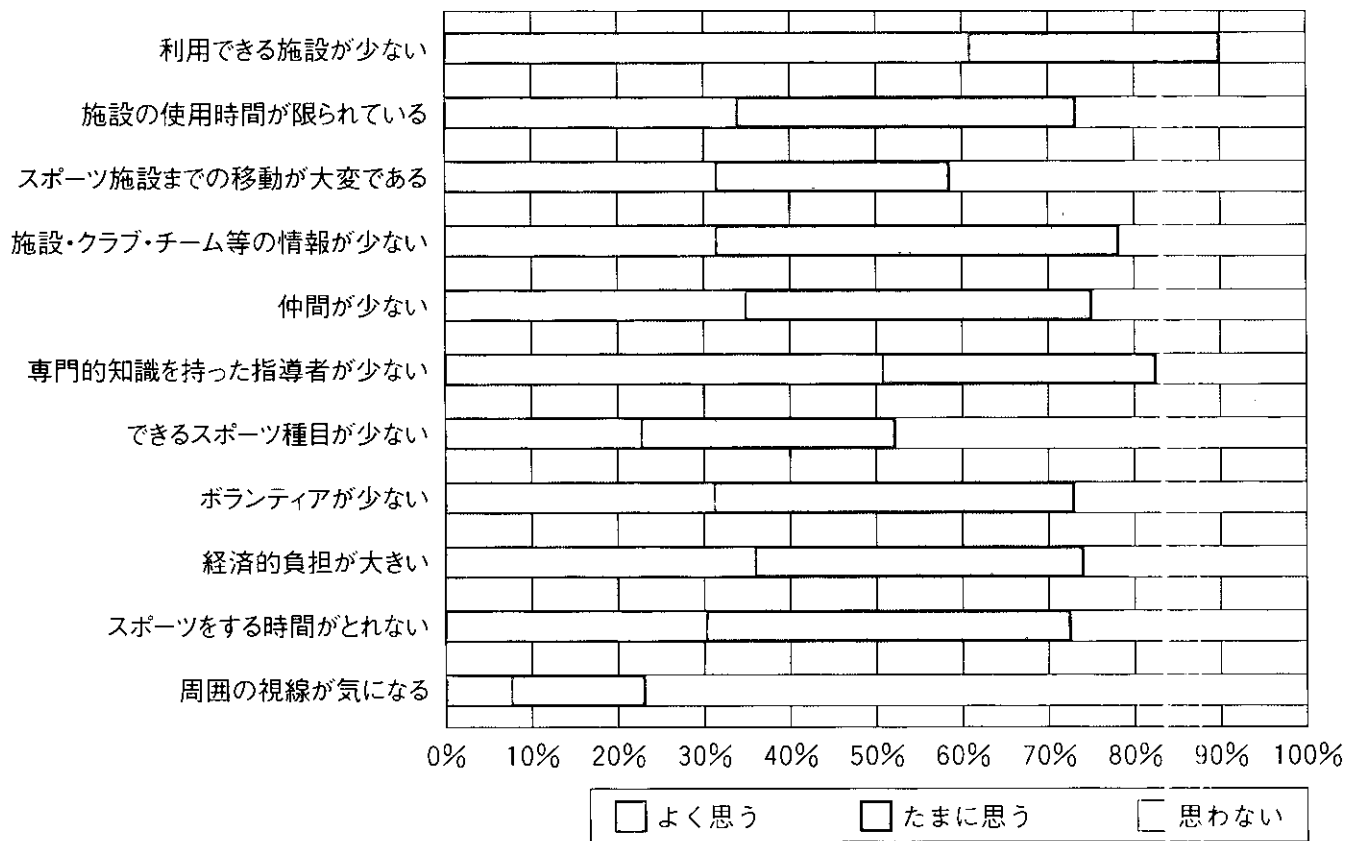


図1 スポーツをする上で不便に感じていること (n=63)

(3) まとめ

障害者体育センター利用者が日常、どのようなスポーツ活動を行っているかをまとめると次のようになります。

1. 障害者体育センターでスポーツを行っている障害者は、障害については四肢不自由が最も多く、ほとんどが後天的障害でした。また行っているスポーツは、比較的軽度のスポーツにおいて年齢層が高くなっている傾向がみられました。
2. 行われているスポーツは、その多くが「体力の維持・向上」や「楽しみ」を

目的に行われていました。スポーツにかんする情報は、「家族や知人」などの口コミが中心であり、マスコミやインターネットの利用はあまりみられませんでした。

3. 障害者スポーツにかんする施設や行われるスポーツに共通する問題点は、利用可能な施設数、使用時間、移動、必要な情報、仲間、指導者、スポーツ種目、ボランティア等が少ないことがあげられました。またメンバーの高齢化が進み、新しい人、特に若い人が入ってこないことや、経済的負担についても今後の課題として残されました。

※ おわりに

障害のある人にとってスポーツは、残された身体的機能の維持・向上だけでなく、生活の質の向上にとっても重要なものであります。さらに自信を持ち、力をつけ将来に向かって動き出すための適切な手段でもあります。このことは、障害の有無に関係なく、スポーツにかかわる全ての者にとっても同様であります。平成17（2005）年には岡山県において全国障害者スポーツ大会が開催されます。これを機に垣根なくスポーツが日々実践できる環境づくりが望まれます。今後の障害者スポーツのますますの発展を願って・・・

（新納昭洋 他：岡山県体育学研究 2003.9より一部抜粋）

2 岡山県障害者スポーツの紹介

内容については一部訂正等があります。
また、ご利用については一度問い合わせ先にてご確認ください。

アーチェリー

内容

一般のアーチェリーと同様に、洋弓を標的に当て得点を競う。インドア、アウトドアがあり、的までの距離がそれぞれ違う。

- I 団体名 岡山アロークラブ／昭和56（1981）年～
代表 吉行 秀雄（086-946-0715）
活動日時 月曜日 18：00～20：00／木曜日 19：00～21：00（隔週）
活動場所 岡山勤労身体障害者体育センター（岡山市二日市56 086-223-5480）
指導者 有り
大会等 中四国身体障害者アーチェリー競技大会など
会員数 男22名、女3名、計25名
募集 広報誌やインターネット等で
費用等 年会費3,000円（登録料 別途）

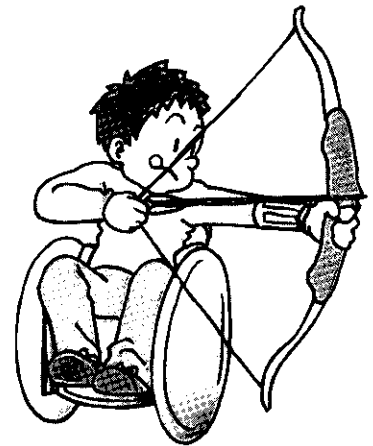
II メモ・コメント

○練習を見学させてもらおうと、健常者、障害者の区別はなかった。同じラインにたち、同じ道具を持ち、同じように引いていた。代表の吉行氏が述べたように、アーチェリーはこの点で特殊なスポーツといえる。障害の有無で区別せざるをえないスポーツが多いなか、みんなが同じようにできるアーチェリーはここが良い点である。

○アーチェリーの弱点は、広い場所が必要だということである。アーチェリーは最長92mの距離の的を射る。当然、安全のためにそれ以上の距離が必要である。しかしながら、それだけの場所はなかなかない。普及するにもそれがネックとなっている。

○練習はわきあいあいとしていて、みんなが助け合い、教えあいながらやっていた。弓を引いている姿は、とても生き生きとしていて楽しそうだった。

（取材者：森山 陽子）



エアロビック

内容

40分くらい曲に合わせて動く。一般のエアロビクスは姿勢なども重要だが、ここではリズムにのることを楽しんだり、動作の順番を覚えたりするのが中心。

- I 団体名 竹内エアロビック研究所／平成7（1995）年～

代 表 竹内 美穂 (086-474-0569)
 活動日時 年1回
 活動場所 不定
 指 導 者 謝名堂りさ：(社) 日本エアロビクス連盟テクニカルアドバイザー、指導歴
 13年／高木 雅美：指導歴3年
 ボランティア 指導者がボランティアで参加
 大会等 ナイスハート(財)ふれあいの広場
 会員数 男女合計 200名(毎年異なります)
 募 集 していません
 費用等 集めていません
 入会について 事前に施設や付き添いの方などと打ち合わせをします

II メモ・コメント

- 知的障害(ダウン症)の人が多い。
- 集中して、無邪気にエアロビックをしている。
- 車いすの人は腕だけのエアロビ。
- 異なる年齢でも、お互い照れることなくできる。
- 注意事項：障害の程度によっては、自己の体温調節ができない場合があります。特に暑い日には、エアロビに没頭しすぎて水分不足になってしまうおそれがある。指導者は随時、休息や水分補給を呼びかけています。(取材者：竹内 美穂)

エアロビック リズム体操

内容

障害のある人も無理なく楽しめる、リズムを使った運動(子どもから高齢者、重度障害者も)。

I 団体名 エアロビック・サークル・チーム・MOMOTARO／平成8(1996)年～
 代 表 竹内 研 (086-474-0569) e-mail: takeuchi@Kiui.ac.jp
 活動日時 週5回 年間を通じて 相談可
 活動場所 倉敷市内の各施設
 指 導 者 竹内 研、竹内 美穂
 ボランティア 10名
 大会等 障害者スポーツ大会への参加・指導、障害者・高齢者施設への出張指導
 会員数 男3名 女80名 合計83名
 募 集 特にしていません
 費用等 集めていません (取材者：竹内 研)

グラウンドソフトボール (盲人野球)

内容 ソフトボールとキックベースボールをたしたようなもので、1チーム10名で行う。10名のうち4名が全盲で、6人が弱視のメンバーで構成されている。ボールは男用3号のハンドボールを使用。バットは野球で使うものより重い。

I 団体名	視覚障害者協会 グラウンドソフトボール部/昭和40(1965)年ごろ～
代表	モトジマ (086-455-4796)
活動日時	不定期 3～5月までは週2回、それ以外は月2回程度
活動場所	岡山盲学校 (岡山市原尾島4-16-53 086-272-3165(代))
指導者	モトジマ: 指導歴3年 (指導に資格は特にいらませんが、審判には必要)
ボランティア	募集中。晴眼者の人でも一緒にやってくれる人
大会等	5月: 国体予選 (国体には中四国から1チームだけ出場できる) 7月: おりずる杯 (参加チームは中四国各県から1チームと、政令指定都市である広島市から1チームの合計10チーム)
会員数	男20名
募集	学生時代の経験者などへの勧誘
費用等	集めていません
入会について	活動は誰が参加してもよい。しかし国体予選に出場するには、障害者手帳を持っていることと、障害者連盟に登録しておくことが必要。以前の国体予選の出場条件は14歳以上(社会人)でなければならなかったが、現在は学生も出場できる。

II メモ・コメント

○ルールについて:

10名で1チーム。その中に全盲4名、弱視6名を含む。また、キャッチャーが手を3回たたくと、ピッチャーがボールを転がす。また守備に関しては、全盲の人はゴロであってもキャッチするとアウトになる。弱視の人は普通の野球と同じく、ノーバウンドでキャッチしないとアウトにならない。その他のルールは細かくあるが、大会ごとに規定されている。現在では、晴眼者の人でも参加できる大会もある。練習の雰囲気はわきあいあいとした中、個々がそれぞれ向上心にあふれ目標を持っていることが感じられた。

(取材者: 齊藤 絵美)

車いすダンス

内容 音楽にあわせて、車いすの人と健常者の人が2人1組になって踊る。

- I 団体名 || 日本車いすダンス連盟岡山市支部／平成8（1996）年ごろ～
代 表 || NPO（非営利活動法人）
活動日時 || 団体レッスン 日曜日 13：00～16：00／個人レッスン 水曜日 13：00～
活動場所 || 日本車いすダンス連盟岡山市支部（赤磐郡熊山町桜ヶ丘東1-1-806
08699-5-2740 FAX 08699-5-2269）
指 導 者 || 来海千寿子：外交ダンス・車いすインストラクター、指導歴5年
来海 直人：外交ダンス・車いすインストラクター
ボランティア || 募集中 晴眼者の人でも一緒にやってくれる人
大会等 || 第30回記念ニュースターダンス競技大会
（平成13年7月29日（日）10：00～19：00 convex岡山 マスカットホール）
第30回記念ニュースターダンス競技大会 前夜祭 大舞踏会
岡山スポーツダンス協会（平成13年7月28日（土）17：00～20：30）
スポーツ以外 || 車いすダンスが充分知られていないので、「知らせる、広げること」を現在の課題として、希望があればダンスパーティーのデモンストレーション（3ヶ月に1回ぐらい）を実施している。
会 員 数 || 岡山支部 15～16名
募 集 || している（デモンストレーションやチャリティーで）

II メモ・コメント

- ある一つの踊りのパターンを覚えたら、全国共通で使えるようにダンスを作っている。
- 指導について：障害者の人と健常者の人が一緒に踊る時に気をつけないといけないのが、双方の間の距離（≒わく）を保つことであり、そのわくをきちんととり続けるのができるような、一緒に踊る人の心の姿勢が大切。
- ダンスが最終目的であるが、人によってはそれぞれの目標が違う。そのため指導者は、会員一人一人の障害についてよく知っておく必要がある。感覚、程度など本人にしか分からないことがある。本当に理解するためには、コミュニケーションをとっておくことが大切。どんな人でも普通の扱いで、同じように接することが大切（この団体はダンスだけが目的ではないということが大切）。
- 感想：一人一人が目標や練習メニューが違っている。まず1つをクリアーするために、目に見える以上の努力が感じられた。みんなで本当に喜んでいる姿をみて、すごく生き生きしたものを感じた。

（取材者：難波 るみ）

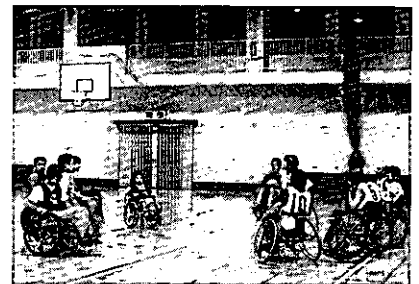
車いすツインバスケットボール

内容 通常のバスケットボールのゴールと、フリースロー・ラインに設けられた低めのゴールの2つを使い得点を競う。日本で考案されたスポーツ。握力の弱い選手のために、ボールは軽く小さめの5号球を使用する。ボールを取りやすくするために、各選手はゴムの手袋を着用する。その他はメモ参照。

I 団体名	ダルク岡山／平成6（1994）年～
代表	宮地 秀典（090-1181-6012）
活動日時	木曜日 13：00～17：00／土曜日 13：00～20：00
活動場所	①岡山勤労身体障害者体育センター （岡山市二日市56 086-233-5480） ②倉敷健康福祉プラザ（倉敷市笹沖180 086-434-9850）
指導者	信谷
ボランティア	常時6～8名。大会時は主催者側からボランティアを派遣することも
大会等	※ツインバスケットボール ブロック対抗戦 ※車いすバスケットボール&ツインバスケットボールon全国大会 ※近畿・中四国ツインバスケットボール 定期大会 etc
会員数	男19名 女1名 合計20名
募集	している（病院、リハビリセンターの紹介など） ホームページの開設を現在計画しています
費用等	年会費14,000円

II メモ・コメント

- ツインバスケットボールが何であるかを知っている人は少ない。
- 病院、リハビリセンター等からの紹介はあるが、新しく入会する者は少ない。
- 車いすバスケットチームは各県に3～4チームあるが、ツインバスケットチームは各県に1チーム（多くても2チームほど）。
- 使用できるスポーツ施設が限られている。
- 自律神経に障害を持っている人もいるので、体温調節は大切。
- ルールや競技内容について：
 - ・ほとんどバスケットボールと同じルールで行われる（トラベリング、テクニカルファール、チャージetc…）
 - ・一部ツインバスケットボール用には、30秒ルール等時間変更がある。障害の程度に関するものもいくつかある。



- ・男女のハンディーなくプレイできる。
- ・障害の程度差をカバーできるルールがある。
- ・事前に医師によるメディカルチェックが必要。

(取材者：本山 理恵)

車いすテニス(岡山市) (内容) 競技用の車いすを使ってテニスをする。

I 団体名	サタデーナイト会／昭和61(1986)年～
代表	山根 勇 (086-225-3970)
活動日時	火・木・土曜日 18:00～21:00／日曜日 13:00～17:00
活動場所	岡山勤労身体障害者体育センター (岡山市二日市56 086-223-5480)
指導者	内山 久暉：指導歴15年、滝 正敏：指導歴2年、 大熊 亮：指導歴7年
ボランティア	約4名 (所属：日本シニアテニス協会・女子連盟など)
大会等	※岡山市長杯 (出場規定は特にないが人数制限あり) ※JWTA (日本車いすテニス協会) 主催の大会 (協会加入が条件) ※ITF車いすテニスツアー (神戸、飯塚、長野、仙台、大阪、広島、厚木)
会員数	男30名 女2名 合計32名
募集	随時「口コミ」や市テニス協会の案内を通じて
費用等	入会金1,000円 月会費1,000円
入会について	会員は練習コート代 1回200円が別に必要 希望があれば気軽に体験できる (その場に応じて対応)
その他	・規約あり ・合宿やキャンプもある

II メモ・コメント

- 女子連盟が開催する講習会が年2～3回(6・7月中)にあり、指導者の滝さんが月1回(日曜日)テニススクールを開いている。この講習会を終えると、その成果の発表の場といえる市長杯が年に1回開かれ、常に目標をもって練習に取り組める。また市の協力で月に1度開かれる滝さんの車いすテニス教室では、様々な人と交流を深めることができる。週に定期練習が4日あるので、都合の良い日気軽に参加できるのが大きなメリットでもある。10～50代と、会員の年齢層も幅広く、みんなでスポーツを楽しむ。熟練者には、国内外を問わず活躍している者もあり、レベルも次第に上がっている。
- 問題点としては、代表の山根氏によると、①運営資金、活動場所確保の問題、②岡山県のレベルをどう引き上げるか(指導者などの点で、他県に追いつくにはどうしたらよいのか)、③会員数を増やすにはどうしたらよいのか(どのようにしたら会が盛り上がるか)という4点をあげている。

2 岡山県障害者スポーツの紹介

- 女子連盟の話によると、車いすテニスのボランティアに参加して、15年が経過している。最初の7年間ほどは、どれくらい相手が要求しているか、どこまで手をかせばいいのか、また対等な立場でコミュニケーションをとることが難しかったと話していた。また「テニス好きな者同士がお互い楽しむ」ことができるようになるまでも時間がかかったと話していた。会話におけるコミュニケーションがとても重要で、だんだん言いたいことが言え、冗談やいやみを交えて話せるようになった。
- ボランティアについて一番大変なことは、「ボランティアの人集め」である。取材者が見学した時には23名のボランティア（女子連盟）が参加していた。しかし少ない時には6名程度であった。たった年3回の講習会であるが、少しでも多くの人に参会してもらえるように募集の仕方を工夫している。ボランティアの参加者からは、「たった3回の講習会だけでも、皆さんずいぶん上達されている」といった意見がある。
- サタデーナイト会は随時体験可能です。「来て下さる方は大歓迎!!。かしこまらずに皆で楽しくやりましょう」と山根代表の言葉通り、明るく、楽しい雰囲気の会です。

(取材者：古舞 園子)

車いすテニス(倉敷) **内容** 競技用の車いすを使ってテニスをする。

I 団体名	ももっこクラブ
代表	丸山眞由美 (090-9469-3158)
活動日時	第4土曜日 17:00~19:00 他月3~4回
活動場所	くらしき健康福祉プラザ(倉敷市笹沖180 086-434-9850)
指導者	大熊 亮：指導歴9年、資格：テニスA級指導員、障害者スポーツ指導員、日本車いすテニス協会コーチ
ボランティア	10名
会員数	男2名 女3名 合計5名
募集	ポスターでしています。
費用等	入会金：無、月会費：1,000円
入会について	代表 丸山まで
その他	規約あり

II メモ・コメント

- ジュニアクラブとして活動しています。これからどんどん活動の輪を広げていこうと思っています。これからはじめてみようとお考えの方、ご一報ください。

(情報提供：大熊 亮)